

序

プライマリー・ケア医は排尿障害の診療にどう向き合うか？

排尿障害というのは、正常な排尿ができない状態全般を示す用語です。頻尿、尿失禁などの尿が必要以上に出てしまう状態のほか、逆に排尿がスムーズにできない状態（排尿困難や尿閉）なども含んでいます。よって、一概に排尿障害と言ってもいろんな異常が考えられます。しかし、患者さんの症状がどれほど複雑で多岐にわたるものであっても、その原因は患者さんの訴えから大きく2つに分かれます。一つが排尿の異常で、回数、出にくさに着目して問診します。もう一つが蓄尿の異常であり、我慢が効かない、漏れる、尿意がない、などに分けて考えることが大事です。また、症状から診断できるものが多いとはいえ、最低限の検査なしでは適切な治療法には至りません。

本書は、排尿に関するメカニズムなどは他書に譲り、あくまでも症状から最低限の検査で、患者さんに少しでも適切な薬剤や治療法が選択されるような、手引書を目指しました。実際に臨床で行っている経験を基にしているので、多少の癖などはあるかもしれませんが、最良の方法ではないかもしれませんが、決して最悪の治療法やご法度破りとか禁忌といった、「何でそんなことやったの？」と言われるような方法は紹介していません。後から後悔しない治療法を紹介しようと考えました。



「織田が搦き、
羽柴がこねし天下餅
すわりしままに喰うは徳川」
にちなんだ錦絵。
「ウロがみて、
薬が効いたOAB
すわりしままに処方（だす）は〇〇」
のように揶揄されないよう気を付けたい。
国立国会図書館ウェブサイトより

在宅医療の普及で、プライマリ・ケア医が排尿に関するトラブルに対処しなければいけないケースも増えてきましたので、カテーテル管理やオムツの選択などにも、かなりの紙面を割きました。実地に役立つ手引書を目指した結果です。

排尿障害診療の「はじめの一步」として本書を読んでいただき、さらに詳しい情報が必要なときには、参考文献としてあげた書籍やウェブサイトを利用して、知識を深めていただければ幸いです。

私のクリニックのある静岡市には、徳川家康が晩年を過ごした駿府城があります。世間では図のように、徳川家康はいいとこ取り…のように言われています。しかし静岡市の人々には、大変な苦勞を重ねて報われた偉人として尊敬されています。

本書を読んで、専門の泌尿器科医から、「薬だけ出す〇〇…」と言われないうようになってほしいと切に祈る次第です。

2016年7月

影山慎二